

「ちょっとだけ考えてほしい歯科基礎医学 基礎の視点から臨床を考える」

天田歯科医院院長

中央医療歯科専門学校 免疫・微生物学講師 天田 雅人

*21世紀の新しいキーワード「マイクロビオーム」

2010年雑誌 science の選ぶここ10年の10大ニュースの一つにマイクロビオームという言葉が選ばれました。人体にはたくさんの微生物が住み着いている。皮膚・口腔・消化管の表面には、たくさんの常在菌が定着し、微生物との間で共生関係が成立しているときには私たちは健康が成り立っているというのです。21世紀になって常在微生物は予想以上に私たちの健康を左右していることがわかってきました。例えば腸内細菌叢は、代謝性疾患・炎症性疾患・がんの発生や進行まで関与していることが証明され、人の健康と常在微生物との関係を研究するため、人体の常在微生物叢をマイクロビオームと呼ぶことになりました。

(Microbiome の語尾にある-ome はすべてのという意味です。Gene 遺伝子-ome 遺伝子全部ゲノム) 正常のマイクロビオームは、人体と共生関係にあり悪いことはしません。ある時マイクロビオームの共生関係が崩れ高病原化した時発病すると考えられています。

*口腔常在菌叢

口腔内には700種とも800種とも言われる細菌が住み着き、マイクロビオームを形成しています。口腔内でどんな時に口腔マイクロビオームは高病原化するのでしょうか？高病原化のきっかけとマージン・補綴物の関係はどうなのでしょう？歯が無くなると口腔の微生物はどこに行ってしまうのでしょうか？なくなるのでしょうか。義歯との関係は？またインプラントは何故口腔内で機能できるのでしょうか。など・・・今回基礎の視点から補綴物を考えてみたいと思っています。